

六郷特別出張所管内	
人口	男 32,805人
	女 30,965人
	計 63,770人
世帯数	31,312世帯
平成24年6月1日現在	

六郷わがまち

発行：地域力推進六郷地区委員会
 編集：「六郷わがまち」編集委員会
 事務局：大田区六郷特別出張所
 〒144-0055 大田区仲六郷2-42-2
 電話 03(3732)4885
 FAX 03(3735)6249

六郷わがまち

ほかの地域にふれて、
わが町の地域力向上を！

・縁あって、わが六郷地区は、
秋田県美郷町、長崎県長崎市と
『絆』を結んでいます…

秋田県美郷町(旧六郷町)と私たち(表1)

平成十六年、三町村合併で誕生した美郷町には、合併前わが地域と同じ名の「六郷町」があった。その当時からこの絆が、二十三年間続いている。「六郷」と冠する地域は全国に点在するが、なぜ秋田の「六郷町」なのか。本紙がそのルーツに迫ります！

美郷町は、県南東部に位置し、奥羽山脈が連なる横手盆地の東部に広がる扇状地帯にある。総面積は大田区の約三倍、人口は三十分の一である(表2)。各所に地下水が自噴し、「六郷湧水群」として『名水百選』『水の郷百選』に選定されている。

表1 美郷町と大田区の主な交流年表

年号	できごと
平成元年	西六郷少年少女合唱団が六郷町立六郷小学校を訪問
二年	親善大使の赤坂氏が六郷青少年対の大島氏を訪問
三年	六郷青少年対の役員及び有志等が六郷町を視察 六郷町と大田区六郷が子ども交流で合意
五年	町立六郷小学校児童が大田区子どもガーデンパーティーに初参加 六郷町がOTAふれあいフェスタに初参加・物産展を開設
八年	六郷町と大田区の間で災害時支援に関する協定を締結(表3)
十二年	「秋田大田六郷交流会」の規約制定
十六年	六郷町・千畑町・仙南村が合併し美郷町となる
十七年	美郷町と大田区の間で、友好都市提携を結ぶ
二十一年	交流会の名称を「六郷美郷交流会」に変更。区との連携を強化 松原大田区長等が美郷町合併五周年記念式典に参加
二十四年	六郷青少年対ジュニア部主催第四回子ども交流派遣実施



美郷町の小学生が参加した、今年のガーデンパーティー



児童・関係者とともに参加し、スピーチを行う松田町長



美郷町旗

表3 災害時における相互応援に関する協定(抜粋)

1. 食糧及び飲料水の供給
2. 応急物資(生活必需品)の供給
3. 応急対策等に要する職員の派遣及び資機材の提供
4. 被災者及び被災児童の一時受け入れ

平成二年、六郷町の地域振興を目的として、対外的に自らの地域を広報する役割を担った同町親善大使の赤坂氏が、六郷青少年対の大島氏を訪ねる。東京在住の赤坂氏が、広報活動の拠点に同じ地名のわが六郷を選び青少年交流を意図したことが、『絆』を結ぶきっかけとなった。
 また、その前年、鎌田典三郎(のりさぶろう)教諭が率いる西六郷少年少女合唱団(注1)が町立六郷小を訪問し演奏会を開催したことが交流の始まりであったという説もある。

青少年交流から始まった美郷町(旧六郷町)との絆は、現在連合会と青少年対で構成される「六郷美郷交流会」が主体となって脈々と続いている。六郷地区からは大田区の方針の下、毎年美郷町を訪問し主に地域防災に関する協議を重ね、一方美郷町は、OTAふれあいフェスタ等で物産販売を行い好評を博しており、双方の防災面や商工面での絆が深まっている。また子ども交流においても、お互いの訪問により自然と都会それぞれの特長を活かした教育を進め、今後は、新たな分野として観光面での交流が期待されている。

緑と花と湧水のまち、秋田県美郷町へ行ってみよう！

注1：昭和30年発足、NHKの「みんなのうた」「歌のメリーゴーラウンド」の常連合唱団に。鎌田氏死去後解散。その後、再発足して現在も活動中。

長崎県長崎市と私たち

長崎市には、長崎くんち・精霊流し・ハタ揚げ、の三大行事がある。毎春在京の長崎市出身者が多摩川河川敷に集まり、「ハタ揚げ大会」や「長崎くんち・龍踊」を開催しているのを知っていますか。ハタ揚げって何？ 龍踊って？

「ハタ揚げ大会」 長崎では「凧」のことを「ハタ」と呼ぶ。この「ハタ揚げ」は、他の地方の「凧揚げ」と異なり、高く揚げながら他のハタと掛け合って相手の糸を切る合戦である。そのためハタは、菱形に二本の骨を十文字に組み合わせ、自由に操れるようになっていて。本場では糸にビードロ(ガラスの粉)を塗り、相手の糸を切ることができるが、多摩川河川敷では、ビードロを使わずにハタを組み立て空に舞上げている。東京長崎市会(ビードロ会)では、すでに五十年以上も「ハタ揚げ大会」を行っているが、最近「龍踊」も披露され、多くの地元の人々の参加を得て地域行事に発展している。参加人数は一昨年が七百人、昨年は千五百人、今年も四月二十九日に盛大に開催し、千八百人を数えた。

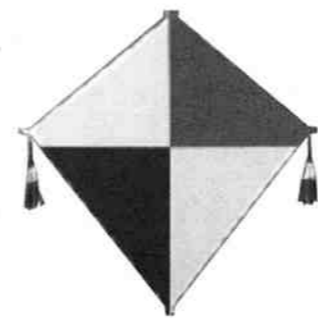


龍踊：玉を追う龍。胴体は腰の輪で組み立てる。(写真の龍は約60kg)



先着100名に、無地のミニ凧(ハタ)が配られ、思い思いの絵柄を描く小学生たち。

六郷にも有名な「とんび凧」がある。河原に並べた干物をねらうカラス除けのために効果があった。黒い羽に大きな目、大きなくちばしを有する鳶が怖かったに違いない。江戸末期から大正初期まで盛んだった凧作りは農家の副業にさえなっていた。凧を揚げる文化に長崎と六郷の「縁」を感じる。



「ハタ」の一例



とんび凧

【龍踊】 長崎市諏訪神社の「お祭り」を地元の人たちは「おくんち」と呼んだ。一説には、旧暦の九月九日(くいち)を中国の風習による祭礼の日として行ったことに由来する。おくんちでは「龍踊」をはじめ様々な踊りが奉納される。(写真右上) 蛇腹胴の張り子の龍を十数人が棒で支え持ち、龍の前方の金色の球体(玉)を追いかけるように練り歩く様子は圧巻である。龍が乱舞しながら「太陽」や「月」に模した玉を食べると、空は暗転して雨雲を呼び起し雨を降らせるといふ。日照りに苦しむ中国農民の五穀豊穡の祈りから始まった雨乞いの儀式が日本に伝わったものである。

ポルトガルやオランダなど海外交易の拠点だった長崎市、日本の玄関としてますます国際化が進む大田区。互いに外国との絆を大切にする地域。これも不思議な「縁」といえる。六郷地区と長崎市の絆は、二年と始まったばかりであるが「羽田空港は現代の長崎出島」と松原区長も関心を寄せる。

トピックス



①第8回地域の防火防災功労賞最優秀賞(消防総監賞)が六郷地区自治会連合会に贈られ、15町会自治会のそれぞれが市民消防隊の努力が評価された(一月)。



「改訂版 六郷今昔小誌」

②「改訂版六郷今昔小誌」が発刊。平成十三年に故平野順治氏が編集したものを加除修正し、平成十四年から現在に至る六郷地区の出来事を補筆した(三月)。



新庁舎の完成予想図。雑色駅そば、国道沿い(仲六郷2-44-11)

③六郷特別出張所新庁舎の建設工事が五月中旬から始まった。集会所や会議室が併設される。オープン予定は平成二十六年春の予定。



金属パネルとガラスを用い、近未来的なデザインの雑色駅

④京急本線は、十月に区内のすべての駅が上下線とも完全高架化される。なお、駅舎やレールの撤去完了は、平成二十六年度中の予定。